

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301703		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「希の家」1		
所在地	福島県郡山市御前南2丁目65番地		
自己評価作成日	令和3年8月21日	評価結果市町村受理日	令和4年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・郡山市での初のグループホームとして19年目になり、お客様の身体レベルにあったケアの提供をご家族様の協力も頂きながら行っている。今年度はコロナ禍により外部での研修の参加が困難な状況であったが、法人内外の研修にリモートで参加し、認知症の理解や介護技術の質の向上を図っている。又、自事業所は看取りケアに取り組み、医療機関との連携とお客様の状態に合わせた医療の提供のサポートを行い、主治医と共にご家族様の希望に沿った終末期ケアを支援している。

・余暇活動の充実を図る為、お客様の楽しみを提供できるよう努め、日々の体操や歌を唄ったりカルタをしたり等、楽しみをもって生活して頂けるよう支援している。また、食器拭きやモップ掛け、洗濯たみ等、生活レクリエーションを用いて残存機能の維持と向上に努め、日常生活の中で役割を持って過ごして頂いている。

・外部広報にてイベントや行事の様子を小・中学校や公民館に掲示したり、ブログや福ひろばの活用にて自事業所の取り組みを地域へ情報発信している。又、防災訓練については、近隣の消防署分署に協力を仰ぎ、訓練時の立会いと指導を頂き防災意識の向上に努めている。近隣住民へは緊急連絡網の参加協力にて、災害時の協力体制の構築を図っている。

・昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルスの感染予防の為に、職員や外から来所される方々の検温、アルコール消毒等の感染対策を徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人・管理者は職員の人材育成と資質の向上に努め、法人内階層別研修・コヤマカレッジで積極的に職員育成の機会を作り質の高いサービスの提供に努めている。

2. 法人・事業所が連携し、利用者と家族の要望や意向を積極的に把握しながらサービスに反映している。毎年「お客様アンケート」を実施したり、「希クラブ」を毎月開催し、意向を把握している。

3. 職員は利用者一人ひとりに寄り添い傾聴しながら利用者を尊重し、利用者本位の支援を行っている。一人ひとりが自分の好きな事(刺し子・塗り絵・編み物等)が出来るよう配慮されており、利用者はゆったりと落ち着いて生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての意義や地域での役割を理解し、各職員で意見を出し合いながら作成し、職員会議等で周知を図っている。	地域密着型サービスの意義を反映した理念は、共有フロアや職員室・休憩室等に掲示し職員はじめ関係者に広く周知を図っている。管理者は職員会議の際に理念を振り返り、職員間で意識づけがなされケアに反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、回覧板や運営推進会議にて地域行事についての地域行事の情報を収集し、行事へ参加させて頂き交流を積極的に図っていた。現在はコロナ禍である為、地域行事の開催もなく、対面での交流もない為、広報誌の発行やブログを活用して情報公開している。	自治会に加入し、コロナ前は積極的に地域行事(夏祭り・芋煮会等)に利用者と参加していたが、現在は困難な状況である。現在は、地域の園芸ボランティアが中庭に訪れ、窓ガラス越しに利用者との交流を行っている。また、散歩や庭の畑で挨拶を交わす等、交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オンライン開催ではあるが認知症サポーター養成講座の開催等にて、認知症の人の理解や支援方法について地域の方々に学んで頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	現在コロナ禍である為、会議自体は中止している。施設での取り組み等を開催月に電話連絡や書面にて報告している。電話連絡した際に意見を頂いた時は、職員会議にて話し合い、運営に反映できるようにしている。	現在、コロナ禍にあり書面開催や電話連絡で運営推進会議が定期的に開催され、会議では事業所の取組内容や現状について報告し、委員の意見や助言を頂きながらサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護サービス相談員は、現在コロナ禍の為に訪問を中止している。必要に応じて連絡を取り協力関係を継続している。	市の担当者とは、介護保険の更新や各種の報告等を行う中で連携を図り、関係づくりに努めている。また、市介護相談員を受入れ、アドバイスを頂き利用者の支援に活かしていたが、コロナ禍で中止している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置と年4回の身体拘束委員会を開催し、介護現場の現状についての話し合いの場を設けている。又、職員会議時に身体拘束の勉強会を実施。事例検討会等を行う事で、高齢者虐待や身体拘束についての理解を深め、ケアに活かしている。	身体拘束廃止に関する指針に基づき、年4回、身体拘束委員会を開催し、会議内容を職員に周知している。また、研修会を開催したり、職員会議等で疑問点を話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。職員の見守りに対応で玄関に鍵をかけない自由な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について勉強会を行い、職員間での意識・理解向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議時等で勉強会を開催し、介護保険制度や成年後見人制度等について、職員間での理解を深めていける様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書や契約書、料金をわかりやすく説明する様に心掛け、事業内容の十分な説明を行っている。不明な点等質問があれば、都度回答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置やお客様アンケートの実施にて、利用者や家族等から要望を頂戴し、運営に反映している。又、毎月、希クラブを開催し、お客様の要望を叶えるための取組みを行っており、ブログや広報誌等にて公表している。	利用者の意見や要望は毎月開催する希クラブや日常の関わりの中からくみ取り、家族からはオンライン面会時・電話連絡時等に出してもらい、それらを法人や事業所で検討し事業運営に反映させている。法人が実施するお客様アンケートは、集計結果等を共有フロアに掲示してある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に運営についてや事業所目標についての進捗を報告している。職員の意見については個別での面談にて、管理者へ意見や要望を提示している。	管理者は日常的に職員の意見や要望を聞く機会を設け、個別面接の際にも職員の意見や希望を把握し、事業所や法人で検討しながら、採り入れている。また、職員の希望に沿って働けるよう配慮したり、資格取得の際の支援等も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理の策定をしており、作成時に職員個々と面談を行い、業務の進捗状況や成果、想い等の確認をし、アドバイスをを行い職場環境や条件の整備に努めている。勤務状況に応じて体制の見直しも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じた法人内外の研修を受けられる機会を設け、参加して頂く事で働きながら学ぶ事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインでの法人内外の研修に参加する機会を設けており、情報交換や交流する機会があり、サービスの質向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時等で、本人や家族の要望を把握し、情報を集約した上でカンファレンスを行い、プランに反映しサービス提供に繋げている。また、安心感を持って頂ける様に環境作りや関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プラン作成の際、家族からの相談記録で悩み事や要望、本人の思い等をプランに反映させている。また、面会時に報告を行い、関係づくりに努め、要望等が挙がった際は、プラン作成、サービス提供に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望んでいる事や意見を頂戴し、カンファレンスを通して職員間で確認し、プラン作成に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人個々の機能や状態を把握し、食器拭きや洗濯たたみ等、生活の中で出来る事を行って頂き、役割を持って共同生活が送れる様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の日々の様子をお便り等によりお伝えし、希望や要望も伺いながら共同で支援していく関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍であり交流の機会は減少しているが、希便りや電話連絡の際にオンライン面会を推奨しており、ご家族様や知人等と話が出来ることが持てるよう支援している。	利用者が今まで築いてきた人間関係や社会とのつながりを大切にして継続できるよう支援している。現在コロナ禍のため、オンライン面会を実施し、利用者の不安を解消し馴染みの関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子から、席の配置の配慮や共同での創作活動、レクリエーションに参加して頂き、利用者同士の関わり合いが持てる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要があれば家族等に連絡を取り、相談を受付け対応が出来る様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での会話の中や、希クラブを毎月開催することで、お客様の要望や希望を確認している。本人に希望や想いを確認し、困難な際は家族にも確認している。	希クラブや日頃の生活の中での会話・表情から利用者の思いや意向をくみ取り支援している。意思表示の困難な利用者は家族や関係者から話を聞き情報を得て、利用者本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や関りのあった事業所関係者から、嗜好や生活歴等の情報収集を図り、経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活表や申し送り表にて状態確認を行い、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当制にて、お客様のよき理解者となり関わることで、よりお客様の情報を収集できている。カンファレンスや事前のアセスメントにより課題を抽出し、本人に合ったケアの計画作成に努めている。	利用者の意向や身体状況・家族の要望をもとに、職員の意見を取り入れ介護計画を作成し、支援を行っている。介護計画の見直しは3ヶ月毎に行っており、身体状況の変化やモニタリング結果をもとに、見直しを行い新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態の記録とケアプランに沿ったケアの実施についての記録を行い、情報共有と計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの相談、希望に対応出来る様、職員間で確認しながら提案、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍で実際に地域に赴く事は出来ていないが、地域には広報誌等でホームの情報発信を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を確認し、訪問診療への移行支援や通院時には家族へ状態報告し、緊急時にも適切な対応が出来る関係構築に努め、支援している。ご本人様の状態について変化が見られた際は、直ぐに主治医へ報告・相談を行い、情報の共有を図っている。	通院支援が難しい家族が多く、入居前に受診していた医療機関に往診への変更を依頼する他、かかりつけ医からの紹介状や面談して情報を聞き取り往診医へつなぐ等医療の継続性に配慮した支援をしている。歯科も往診医が口腔ケアも含め対応している。受診結果は電話で家族に伝え情報共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護師勤務時には、状態報告を行い必要な指示、助言を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関へ情報提供し、入院中の状態等の確認をこまめに行い、情報共有、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りの指針を説明し、意向の確認を行っている。意向が変わることもある為、定期的に意向確認を行い、ご希望に沿ったケアが提供出来る様に努めている。	入居時に重度化・看取りについて事業所で出来ることを説明し、意向確認と同意を頂いている。状況変化時は再度主治医から家族に説明して、看取りについて確認をしている。看取り期に入ると家族と連携を密にとり面会、付き添い等家族の協力を得る他、主治医や看護師、介護職が協力してケアに努めている。看取り後に振り返りの機会も設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のフロー、マニュアルに沿って対応が出来る様に、勉強会や訓練を通して学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を計画し、火災・水害・地震を想定した訓練を実施している。隣接するデイサービスとの合同訓練や、地域と連携しながらの訓練も計画し、有事の際に対応出来る様にしている。	年間防災訓練計画により、デイサービスとの合同訓練年4回を含め、全職員が必ず参加できるよう毎月災害訓練を行っている。訓練は、夜間想定・火災・地震・水害など想定して実施している。食料・水・ポータブル電源等を備えている。近隣に災害時の協力依頼の広報を出し協力者が決まった。また、現在災害時のBCP計画も策定を進めている。	コロナ収束後に災害時の協力者、運営推進会議の地域代表も含め訓練に参加いただき役割等について確認出来るかと協力体制の更なる構築につながると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持った行動、言動が出来る様勉強会を通じて職員一人ひとりが努めている。お客様は人生の先輩であるという敬意を持ち、接遇面でもお客様の呼び方や接し方が不適切にならない様、職員間でも指摘し合えるようにしている。	プライバシーポリシーを作り、勉強会で内容を周知している。居室入室の時はノックをすることや入浴・トイレはカーテン等目隠しをすること、丁寧な呼び方、接し方等当たり前のことが出来るよう徹底に努めている。また、職員間でオープンに注意しあえる職場づくりにも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション提供時など、声掛けやコミュニケーションにて、本人の希望確認し、集団活動が苦手であったり、要望があれば個別にて対応している。また、希クラブにて希望を見出し、ご要望に応えられるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣やペースに沿って支援が出来る様に努めている。食事の時間や入浴時間など、その日の体調に合わせて時間を調整し、お客様のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月一回の訪問理美容の利用や、服の選択、整容面の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の下処理やおやつ作りを職員と一緒に行って頂き、季節に合わせた行事食の提供や食事を楽しんで頂ける様に支援している。食事の準備から、食器拭きや後片付けも一緒に行っている。	昼食と夕食はチルド食を導入しているが、主食、おかずの1品、汁物は手作りしている。行事食やおやつに利用者の好みや希望を入れ、目の前で調理をするなど楽しさや食べたい気持ちを引き出している。また、利用者も皮むきや野菜の下処理、味付け、片付けなど職員と一緒にやるなど役割を持って作業に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や摂取量を把握し、食事形態の変更や食事量の調整を行っている。また、栄養をバランスよく摂取出来る様、補食も必要に応じて提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、口腔内の確認を行っている。また、訪問歯科医定期検診と指示や助言を受けて、ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態や機能に応じて排泄用品を使用、支援を行っている。訴えの無いお客様については定時での誘導や、トイレへ行きたいサインは見逃さず誘導し対応している。	生活表に排泄記録を記入し、パターンを把握しながらトイレ誘導をしている。失禁時はそっと誘導し着替えを行うなど羞恥心へ配慮している。夜間はポータブルトイレで転倒リスクの低減、タンバリンを使いトイレの合図とする等、利用者の状態に合わせて自立に向けた支援をしている。排泄用品は市の補助の範囲に収まるよう研究している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の乳製品の摂取や腹部マッサージ、下剤や整腸剤の調整にて便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時の体調確認を行い、本人に合った湯量や湯加減を把握し調整し、本人の希望や意向を確認しながら、季節に合わせた入浴剤を使用する等、気持ちよく入浴して頂ける様支援している。	入浴は週2回以上を基本とし、一人ずつ湯を張り替え好みの温度に調節して気持ちよく入浴できるようにしている。入浴を拒否する方には、時間を変えたり、入浴後の利用者へ「気持ちよかった。入ってきたら」等声をかけてもらう等工夫している。リンゴ湯・しょうぶ湯の他、季節を感じられる入浴剤も使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向や個室にて使い慣れた寝具を使用する等し、快適に眠れる様支援している。入居時には、出来るだけ使い慣れたものを持参いただくようにしており、自宅と変わらず休むことが出来る様に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の確認をしながら薬の管理、内服介助を行っている。変更時は申し送りにて職員間で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の心身機能や好き・嫌い、得意・不得意な事を把握し、楽しく活動出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為に、外出はせず。外の空気に触れて頂けるよう、中庭に出て花を眺めたり、野菜の収穫をしたりしている。病院受診等により家族と出掛ける際は、感染対策を徹底している。	コロナ禍で法人の方針により外出規制があり、病院受診の時に外出する程度となっている。代わりに、テラスや中庭に出て野菜栽培や収穫、花の鑑賞など外気に触れる機会を持っている。また、事業所の周りを散歩して気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい方が多く、ご家族様が管理されている。紛失等の恐れがある為、お金を所持されている方は居ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等の作成と投函の支援、電話の取り次ぎ支援を行い、自由にやり取りが出来る様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様が季節を感じ取れるよう、リビングを季節に応じた装飾に施し、又、落ち着いて快適に過ごして頂ける様な照明や空調等の調整を行っている。エアコン等の風が直接当たらないような座席配置を考慮し、快適に過ごして頂けるよう努めている。	利用者と季節ごとの貼り絵の作品を作成しリビングに飾る他、行事の写真を廊下に掲示し、季節感を感じたり、行事を思い出せるようにしている。エアコンや加湿器で快適な環境づくりに努める他、感染予防のため時間毎に窓をあけ換気に努めている。利用者は日中部屋に籠ることなく、リビングで塗り絵や刺し子等の趣味やレクリエーションを楽しんで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファとテーブルを配置し、リラックスして過ごして頂けるようにしている。又、和室にて自由に過ごして頂ける様、空間の整備、提供を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	お客様それぞれ個室にて、自宅で使い慣れた物や思い出の物を持参頂き、自由に飾ったり心地よく過ごして頂ける居室の提供に努めている。	入居時にテレビ・ソファ・椅子・携帯電話を持ち込み、家族写真等を飾る等馴染みのものを活かして落ち着ける居室づくりをしている。また、定期的に雑誌(オレンジページ)を持って来る家族もいる。携帯電話で家族と話したり、写真や雑誌を通して家族とのつながりを感じながら暮らせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に不必要な物を置かない様環境整備、安全への配慮に努め、定期的に居室内やリビング、トイレ等の環境整備に努めている。居室に名札やトイレの案内表示を掲示し、自立支援にも努めている。		